（様式５）

令和６年度　日本大学自主創造プロジェクト
日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

プロジェクト番号：２０２４-０３９
プロジェクト名：バリアフリーで新しい読み方としての AUDIO COMIC

プロジェクトの概要

マンガは視覚メディアであり、視覚障害者にとっては読書へのバリアが大きい。そこでマンガのバリアフリー化を探求するため、著作権フリーの「ブラックジャックによろしく」の音声マンガを制作する。音声マンガは、セリフをはじめとする文字の朗読と、絵の説明をコマごとに組み合わせたマンガの新しい形である。音声マンガは視覚障害者のみを対象にはせず、晴眼者に対しても耳からマンガを楽しむ新たな読書体験を提供できるものとして作っていく。

プロジェクトの結果・成果

プロジェクトの達成度合いとしては、『ブラックジャックによろしく』一巻・全七話の台本作成と、その内四話までのレコーディングが終了した。つまり目標であった音声マンガの完成と公開は未だ途上である。

活動の中で特に困難であったことが二つある。

一つ目は、絵を客観的に説明する台本の作成だ。言葉で絵を説明するには、晴眼者が何を見て物語や心情を読み取るか分析する必要がある。私たちは約１０００コマで幾度も絵と説明を比べた。例えば「はっとした顔」では、口の開け閉めが説明されているかで印象は変わる。また言葉選びも重要で、「〇〇が××を見る」と「〇〇が××の方を見る」では二人が１コマに描かれているか否かが異なる。聞くマンガだからこそ、読者が主体的に読み取る感覚を損なわないよう、客観的かつ正確な絵の説明が求められると分かった。

二つ目は、朗読方法の決定だ。実際に収録した際、聞くだけではイメージできない部分が多々あった。例えば擬音で、「シャコーン」という音と自転車をこぐ絵の説明を分けいたが、聞き慣れない擬音は絵と結びつかなかった。そのため「自転車を　シャコーン　とこぐ」と擬音を説明文に入れ、発生源を特定することで分かりやすくなった。また擬音はリアルな効果音か肉声か、肉声なら読み方の抑揚まで話し合った。あくまでマンガの音声化を目指すという趣旨から外れないよう、マンガならではの表現を保つために、何度も仮録音をして比較した。

上記に大半の時間を費やし、計画通りには進められなかったが、音声マンガの基礎を作ることができた。可能であれば、活動期限内に四話までの音声マンガを公開したいと考えている。

私たちは今年度の経験を糧とし、音声マンガの作成を続けると同時に、さらなるブラッシュアップと日本におけるマンガ業界のバリアフリー化に貢献していきたい。

活動写真

①打合せの様子



①収録時の様子

